

## グルジア (サカルトヴェロ) レポート (取材旅行 1/25/07 - 2/01/07)



ほとんどのOIWの方々各市の会員の方々が、グルジアについての事前の情報を持ち合わせておられないと思いますので、今回の取材旅行で私の見た目、又はグルジア人との会話の中で私が知ったことを纏めてみました。ご参考になさってください。

グルジア人は、自国のことをサカルトヴェロ (Sakartvelo) と呼び、自国民のことをカルトヴェリ (Kartveli) と呼びます。グルジア語のことをカルトヴェリ語といいます。元々、グルジアという言われ方は、ロシア語から派生した呼び名であることからあまり良い感じがしないようです。人によれば不快な反応も示します。従って、OIWとしては彼らの感情に配慮し、このレポートでは出来るだけサカルトヴェロ、カルトヴェリという言葉を使用することにします。

### 地理 - 遠い国

地形的に見ると、サカルトヴェロは、北にコーカサス山脈がありロシアと接し、南にも山脈がありトルコ、アルメニア、アゼルバイジャンと接しています。東はアゼルバイジャン、西は黒海に面します。北と南の山々に挟まれ盆地状になっています。かつ、ほぼ中央に南北から山が横切っていて、その山が、昔の時代、西グルジアと東グルジアを分けていました。当時は、西グルジアの中心都市がクタイシ、東グルジア中心都市がトビリシでした。現在は、トビリシがサカルトヴェロの首都となっています。この国を東西に走るシルクロードが、ヨーロッパと東洋を結ぶ交易ルートであったため、当時この国は賑やかであったようです。現在でもシルクロードはアゼルバイジャンからサカルトヴェロを通り、黒海に抜ける重要な輸送の大動脈となっています。日本からは、関西空港から週2便運行しているトルコ航空で22:45に出発すると、13時間のフライトタイムでイスタンブールへ到着し、約18時間の待ち合わせで出発し、トビリシに現地時間で朝3時(日本時間で出発から翌々朝の8時過ぎ)過ぎにやっと到着できるというとんでもない遠い国です。かかる時間では空港から空港までで33時間となり、ヘトヘトになって到着します。



### カルトヴェリ気質

非常に独立心が強く、誇り高き民族です。頑固で信ずるところを、いかなる抵抗があろうとも民族の誇りにかけて徹底的にやりぬくというところがあるようです。ギア氏によると、外敵に対する長い闘いの歴史の中で、多くのカルトヴェリ(何百万)を失くしたとのことです。

旧ソ連時代トビリシにある国の議会会議場でのソ連軍による発砲流血事件。ソ連から独立後のサカルトヴェロ初代のシュワルナゼ大統領を、市民が議会会議場に乱入し追い出し、大統領を辞任せしめた2003年の事件。このようなことは、日本では想像できにくいですが、激しいカルトヴェリの気質を示しています。

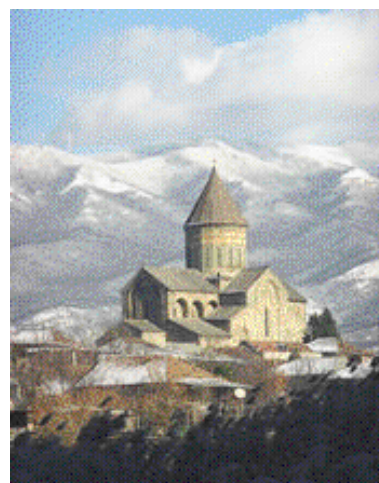
脱ソ連への取り組みが進んでいるようです。北西のアブハジア地区は現在もロシア統治下にあり、ロシアへの国民感情はいいとは言えません。近年ではアメリカとの親交を深

めつつあり、昨年ブッシュ大統領がトビリシに来て、市民とダンスをしたことが話題になっていました。又、有名なソ連の外相であったシュワルナゼ氏でしたが、彼がサカルトヴェロの大統領になってからの11年間は、国の発展のために全く貢献しなかったとの不満が市民の間に強く残っています。

カルトヴェリは、友情・人情に厚くお客を大変歓迎し、家族・親戚を身内として大切にしています。田舎では、家族は親戚も入れた大家族で互いに助け合いながらやっているところもあるようです。40年ぐらい前の日本によく似ています。我々もギア氏の友人ということで、皆から暖かい歓待を受けました。ワインが大好きな国民で、ワイン又ワイン、そしてワインということで徹底的にグラスを交わし、飲めなければ相当苦しいことです。それにしても、日本ではこういったよき昔を何処かに忘れてきたようです。

## 文化

キリスト教に対する宗教心の熱い国民です。教会が中心となって外敵の侵入に抗戦してきた歴史があります。ムツケッタにあるジュワリ教会(6世紀)、スベティツオヴェリ教会(11世紀)等。キリスト教が日常生活の中に根付いています。言語はカルトヴェリ語です。文字はアラビア字のような書体で我々には全く読めません。英語はほとんどの人が分かりません。ロシア語は知っているも使いたがりません。“ハラショー”と一度云いましたが、そっけない反応でした。町の看板も、ほとんどグルジア文字で、英語がたまに見られます。国の名もサカルトヴェロでないならば、Georgiaと読んで欲しいというところでしょうか。飛行機も“Georgian”と表示されています。英語を徐々に取り入れているようです。



## ワインと食べ物

飲み物はワインです。ビールは飲んでも1杯ぐらい、ほとんどワインです。それも、各家庭で自家製のワインをもっており、それを客人にふるまいます。食べ物は何でもOKのようです。以下我々が口にした食べ物を記します。

グビノ	ワインのこと
バドリジャニーニゴズット	ナスと牛のひき肉
ソコ	茸の細切り炒め
バゼ	牛肉のシチュー
エカラ	山菜のあえもの
プハリ	にらもどきのあえもの
ロビオ	煮豆
クウパティ	ソーセージもどき
ツオツツハリ	魚
ヒンカリ	豚マン
ムツワーデ	串焼豚・牛

キューリとトマトはいつも食卓に出されました。リンゴも道すがら、かぶりながら歩いている人をしばしば見かけました。

## もてなし

上記の料理をテーブル一杯に並べて、家族、親戚、客人が集まって、其の都度乾杯をしてグビノを一気に浴びるように飲んでいきます。会の主唱者（オナー）がいて、乾杯の前に、何のために乾杯するかを立ててスピーチします。乾杯される人は、其のたびに立ってその口上を受けます。それが終われば全員で乾杯します。そのときの言葉は以下の通り。

ガンバルジョッス  
ブチキ  
ワッタングリ

乾杯  
ガラスをカチンとあてること  
口上を述べる人と腕をクロスさせて、さしで乾杯する

従って、ガンバルジョッス、ブチキブチキブチキ.....といいながら乾杯します。口上はいくらでもありますので、健康、旅行の安全、民族の繁栄、平和、家族の幸せのためのガンバルジョッス..... 従って、これを延々と続けていき終わりがありません。“朋遠方より来る、また楽しからずや、酒を酌み交わす”というところでしょうか？ 厚い厚い友情の歓迎です。パーティの間中、ご婦人は一歩引いています。

## 人種

カルトヴェリ人は、其の地方を起源とする民族だとのこと。それ以上の詳細は分かりません。顔の表情から見ると、イラン人の顔、トルコ人の顔、東欧の顔が見られます。ともかく敬虔なクリスチャンです。

## 都市

以下の都市は、いずれも我々の立ち寄ったシルクロード沿いの町です。道路の他の交通としては、アゼルバイジャンのバクーから通じる鉄道も、シルクロード沿いの各都市を東西に結んでいます。旧ソ連ということで、インフラ整備は、日本とは比べようのないくらい遅れています。古いものを古いままで残そうというポリシーのようですが、それでも鉄道網、地下鉄、道路の状態の悪い箇所、歩道のデコボコ、落ちはがれた壁、田舎の電気及び電気器具、草原地の灌漑用水.....トビリシの新空港は1月7日にオープンすることになっていました。一歩一歩前進しているようです。



## トビリシ

サカルトヴェロ最大の都市で人口100万の首都です。昔からの古い官庁街の、議会議事堂、裁判所、市役所や劇場、ヨーロッパのどの町でも見られるような立派な堂々とした建物です。教会は、メテキ教会、サメバ教会、みな立派です。風格のある大都市です。街自体の地形は東西には割に長いのですが、南北にはそれほど広がりがなく、何処にいても山がみえます。この国の東に位置しますが、むしろ大阪の地形に似ています。



外資企業として、マリオットホテル、トヨタ自動車、三菱自動車の事務所が見えました。日本食レストラン”TOKYO”、中華レストラン”CHINA TOWN”もあります。

トビリシのサラリーマンの平均月給は 250 - 300Lari (1 ラリ = 約 80 円) ぐらいです。 4 人家族の 1 ヶ月の生活費が約 300Lari です。

### ムツケッタ (Mtskheta)

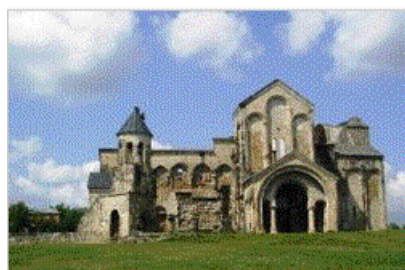
トビリシより車で西へ 30 分少々。 11 世紀の古都。 別名キングタウン。 町にスベティツオヴェリ教会があり、山頂にジョワリ教会がそびえる。 この町は、カルトヴェリ人の精神的支柱になっているようです。 ギア氏の生まれた町。

### ゴリ

サカルトヴェロのほぼ中央に位置するスターリンの生まれた町。 トビリシから車で西に 1 時間少々。 ソ連時代、ソ連が最も国際社会で影響力を行使した栄光の時代をリードしたカルトヴェリ人であるということで、カルトヴェリの誇りとして称えられているようだが、この評判にも今は異論があるようです。



### クタイシ(Kutaisi)



The 11th-century Bagrati Cathedral in Kutaisi.

西部の主要都市で、サカルトヴェロ第 2 の町。 トビリシから 350 キロ。 高いビルはないが、東西南北に大きな広がりのある町。 西にあります。日本の関東平野のように広い地形の都市です。市街は、時間がなくて見ておりません。この都市の古風なイメリ劇場に行きダンス取材しました。

### IMERI TEAM(来日チーム)

3 人の世話係りと 18 人のダンスチームの総計 21 名です。名簿は、別紙参照。クタイシの市中にある IMERI (イメリ) 劇場の選抜されたプロのダンスチームです。18 名の内、団長の名前がソソ氏です。ソソ氏を除くと、多くは 20 代です。グラミ君の親戚が 2 名 (一人が楽器、一人がダンサー) チームに入っています。

### 簡単な内訳:

ダンスチーム 18 名(男 14 女 4) ソソ氏がダンスチーム団長  
世話係り 3 名(男 2 女 1) グラミ、エカ、アンドロー  
グラミ君が日本語通訳兼グループ全体のコーディネーター

英語	少々	8名
	できる	2
日本語	少々	2
	できる	1
カップル		2組
予定カップル		1組
全員クリスチャン		

### 踊り

イタリア、ネパールのダンスと違い、非常に力強い、エネルギッシュな、激しい踊りです。首都のトビリシにもダンスグループは存在するが、今回は、OSAKA IN THE WORLD 実行委員会の趣旨を理解してくれたクタイシから文化交流使節団を迎えることにしました。グルジアのダンス

の特徴は、女性はしなやかで楚々とした立ち振る舞いに対し、男性はその女性たちの気を引こうとする力強さを踊りの中に表現しています。特に男性の踊りで目を引くのは、足の爪先立ちで踊る様子です。バレエの原型がこの地から作り出されたようにも思われます。また下半身に力をいれ、地面を足で激しく踏みつけるようなステップが印象的でした。それに、これだけ女性に気を引こうとするダンスでありながら、一度として手をつないだり、体に触れることはありません。



約1時間ほどのショーでしたが、日本ではこのようなダンスは大変珍しいのではと思います。

### 旅行の手配

トビリシからは、GIT(Group Inclusive Tour) Fare 等がなさそうなので、彼らがどのような運賃の航空券を手配することができるかによっては、来日メンバーの数に変更があるかもしれません。トビリシ発の航空券は現地で購入する以外方法がないので、その購入についてはコーディネーターであるグラミ君の代理店、航空会社との交渉力によらねばならない。無事21名が来られるような手配ができることを願うのみです。トビリシ市役所を訪れた際、交通・輸送担当の助役にお会いできたので、切符の購入に関してグラミ君へのご支援と手助けをお願いはしましたが、結果についてはまだはっきりしたことが云えません。

彼らの日本への旅程を考えると、クタイシよりトビリシまで車で4時間、飛行機の出発時間の6:00を考えると、その晩は寝ずに走るようになるでしょうから、トビリシから関西までの33時間をくわえると総計では37時間となり相当厳しい体力の要る旅行となるでしょう。